

呈茶使用

作家作品集

本展期間中、特別に出品作家の器や皿で
抹茶や珈琲をご提供しています

限定企画

すきなうつわ**選べるたいむ**
in 数寄屋 Café

平日（火・水・木・金）10：00～12：00



抹茶をご注文の際、この作品集からお好きな器をお選びいただけます。第4希望までお申しつけください。

※状況によりましては、ご希望に沿えない場合がございます。

その際は、ご了承くださいますようお願いいたします。

01

安藤 工

TAKUMI ANDO
仙太郎窯/岐阜県多治見市

志野



02

安藤 工

TAKUMI ANDO

仙太郎窯/岐阜県多治見市

鼠志野



03

安藤 工

TAKUMI ANDO
仙太郎窯/岐阜県多治見市

志野



04

安藤 工

TAKUMI ANDO

仙太郎窯/岐阜県多治見市

志野



05

安藤 工

TAKUMI ANDO
仙太郎窯/岐阜県多治見市

鼠志野



06

安藤 工

TAKUMI ANDO

仙太郎窯/岐阜県多治見市

志野



07

安藤 工

TAKUMI ANDO
仙太郎窯/岐阜県多治見市

志野



08

加藤令吉

REIKICHI KATO

背戸窯/愛知県瀬戸市

緑影彩



09

加藤令吉

REIKICHI KATO

背戸窯/愛知県瀬戸市

緑影彩



10

金井伸弥

SHINYA KANEI

灼陶庵/千葉県野田市

御深井



本来の伝統的「御深井」を作者の独自解釈によりアレンジした創作茶盃です。万治3年（1660）頃に名古屋城の北側、御深井丸下御深井御庭で窯を築き、尾張徳川家のお庭焼として焼かれたことから「御深井焼」と呼ばれるようになった。釉調は淡い青または黄味がかった透明度の高いものが多い。

金井伸弥

SHINYA KANEI

灼陶庵/千葉県野田市

黒織部



修行時代の瀬戸赤津で過ごしたこともあり、「初心忘れるべからず」の思いから伝統のやきものをほぼ茶陶のみで創作し続けている。桃山期の茶人古田織部の「織部好み」として焼かれた。青織部、鳴海織部、弥七田織部等様々な種類があるが「瀬戸黒」から発展し、同種の釉薬を使用した織部にも文様のない総黒の織部黒、文様を施された黒織部がある。

12

小林英夫

HIDEO KOBAYASHI

「望」

條刻三方銘々皿



茶碗は稲荷山黄土の手びねりによる器に節目模様を描き、灰釉をうすく施し、強環元炎にて焼成遠望する黎明時の空気感をあらわす。

條刻三方銘々皿は條線を施し器を使用する時、一つの世界が表出する様に制作する

小林英夫

HIDEO KOBAYASHI

黒地象嵌コーヒー碗



條線を施し器を使用する時、一つの世界が表出する様に制作する

13

小割哲也

TETSUYA KOWARI

無心窯/静岡県

鼠志野



織部葉皿



茶碗は、もぐさ土をしのぎの技法で造形した。
平津風化長石を用いた志野釉をたっぷり掛け、
穴窯により焼成した。

織部葉皿は、板作り形成で3足で安定させている。
表面に施された石目により織部釉に濃淡をつけ、
黄瀬戸と鉄釉で掛け分けている。

14

滝川幸志

KOUJI TAKIGAWA

愛知県瀬戸市窯神町

彩陶



15

谷口勇三

YUZO TANIGUCHI

陶遊舎/栃木県宇都宮市

「森の精」



足付蓮皿



足付アジサイ皿



透明感のある線釉で物質（土）と自然と人をつなぐ共生感のあるもの。

16

富岡大資

DAISUKE TOMIOKA

岐阜県揖斐郡

粉引



粉引（こひき）とは、李氏朝鮮から日本に伝わった陶器のこと。粉吹（こふき）ともいう。由来は、「粉を引いた（吹いた）よう」といわれたことから。褐色の素地の上に城化粧を施したものである。

17

伯耆正一

MASAKAZU HOUKI

正一/京都府

刻土幻彩釉



黒い粘土で厚く手びねりで成形、その後ワイヤーで削っていく。素焼後、内側は黒釉、外側はパープルマットをコンプレッサーで濃淡をつけ1,250°Cで焼成する。

みどころ

粘土をワイヤーで刻むと思いがけない形体や表状を見せてくれます。楽しんでいただければ幸いです。

18

伯耆正一

MASAKAZU HOUKI

正一/京都府
三島鉄釉掛分



ろくろ成形で柔らかいうちに印花に城化粧を埋め込む（象嵌）。鉄釉黒色、赤茶色を掛分けて施釉1,250°Cで焼成。

みどころ

印花の真中に鳥文をスタンプ（三島）。回りを更紗紋三角紋で仕上げ鉄釉・黒・赤茶を三島が生きるよう構成いたしました。三島と釉薬を楽しんでください。

19

前田和伸

KAZUNOBU MAEDA

国成窯/越前

粉引



20

前田和伸

KAZUNOBU MAEDA

国成窯/越前

鉄砂釉



21

村田好謙

KOUKEN MURATA

好謙漆工房/京都府

檜「樹奏」/漆



蓮花金の光皿



蓮花銀の光皿



22

高名 秀人光

HIDEMITSU TAKANA

漆芸

